

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402374		
法人名	有限会社　アブリーレ		
事業所名	グループホーム　あさひが森　A		
所在地	〒859-2111　長崎県南島原市布津町甲489		
自己評価作成日	平成22年1月30日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設者は、当地に20年以上前から、保育園を運営し地域の方と2世代にわたっての交流がある。地域密着のホームとして、今後も保育園や学童保育の小学生との交流を続けていきたい。利用者の方とても喜ばれている。また、環境の整備にも力を入れており、芝生付きの東屋にて御興を受け入れる等で地域の方にも身近に感じてもらいたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が保育園であり、お孫さんの登園に同行する老人を見て、「お年寄りの居場所を作ってあげたい」とホームの開設に至り、園児との触れ合いを取り入れ、張り合いのある生活に向けた交流を行なっている。ホームの庭に東屋を建設し、安らぎの場(散歩やお茶をする)や交流の場(あさひが森の集い)として活用し、楽しみの機会に向け、惜しみない援助をしている。開設時に職員と一緒に「自分が入りたいホーム」をテーマに話し合い、理念を作り上げ、共有を図りながら日々実践した生活を一緒にしている。ホーム内には、舞台付きのホールがあり、今年度は市原隆靖氏のコンサートを開催し、大変喜ばれた。利用者は互いに会話や入浴を楽しみ、朗らかに生活され、日々のリハビリ体操が功を奏している。職員の年齢層がバラエティに富んでおり、それぞれ役割を持ち、関係の良好が利用者に対し、映し鏡のように皆さん活動的に楽しく生活されており、今後設備・運営の両面において、益々期待できるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あさひが森では、「あなたの家庭と同じようになごやかで生き生きとした毎日を」の理念のもと、職員会議の最初に必ず全員で唱和し、日々の生活に生かしている。	理念を掲示し、職員間での共有に努めている。職員は自分の祖母と接するように、笑顔で気さくに声掛けをしながら、利用者に合った生活に近づける事に注意を払いながら、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方も利用者として入所されているので、地域の方の面会もある。また、秋祭りの御輿の受け入れや、「あさひが森の集い」等のホームの行事に地域の老人会も参加して下さっている。町の文化展にも、毎年展示参加している。	ホームの庭にある東屋の周辺を活用した「あさひが森の集い」を催し、家族・老人会・自治会・園児の家族にご案内状を配布し、多くの人が参加して楽しい会を実施している。時には介護ボランティアを受託したり、周辺の畑の人からは野菜を頂いたり、地域とは自然に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にグループホームがあることが、安心感を生み出すような存在でありたいと話合っている。職員も町内の者が多く、近所の方から介護に関することや認知症について相談を受ける等あり、気軽に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームからの一方的な報告だけに終わらないように、委員の方からの意見・助言を受け運営に活かしている。貴重な意見であり、有り難い。	運営推進会議は二ヶ月毎に構成メンバーが参加し、開催している。参加者はそれぞれの立場の役割を担っており、積極的に相談や助言が聞ける意見交換を行い、議事録に記述している。また、評価内容は便りに載せ、家族に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南島原市になって、窓口が遠く感じ、連絡を密に取り合うという状況にはなっていないと思う。地域包括支援センターとは、空き状況などを連絡する。	利用者は公的扶助や権利擁護を利用しており、担当者が来所している。また、地域包括支援センターの介護ボランティアに所属している職員を助して、情報やボランティアに来ていただいている。また、近くのホームが市町村を巻き込んで開催する行方不明者捜索の訓練に参加し、公的機関との交流に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全第一の気持ちから、「危ない」の言葉がけがすぐに出てしまうが、今後も禁止の言葉がけについて、職員会議等で話し合っていきたい。	今までに拘束の実施は無く、身体的に不安がある人には、ベットをマットだけにする等、工夫して対応している。また、言葉による拘束には注意を払い、身体拘束の排除に向けた研修に参加し、職員に伝え理解に繋げているが、全員が同じレベルで支援しているかは不安であり、継続して学習していく方針である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加を促し、職員会議で話し合う場を設け、常に注意しあうように、努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業事業を利用されていた方もおられ、その制度の重要性を管理者は理解しているが、職員は認識不足かもしれない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉から、真意を察し不満が残ったままにしないように努めている。	利用者から居室の変更の希望があり、対応し現在落ち着いて生活をされている。家族には毎月便りと個別に手紙を書き送付している。また、家族の皆さんは時々ホームに来られ、気軽に相談をされ、家族アンケートを活用し、外部の意見や指導を仰ぎながら運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体の会議後に、ユニット毎に小さな会議を開き、意見を出しやすい工夫をしている。	職員の離職は少なく、20代～60代が楽しく働いており、若い職員は先輩に敬意を払い、素直に受け止め、向上に繋げている。介護・出産・育児休暇が認められており、働きやすい環境である。また、運営者は会議に参加し、要望や不足備品(最近では汚物流し)等を聞き即座に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の職員会議には必ず出席し、職員一人一人の話を聞く姿勢を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に行くことを積極的に進めている。シフトを作る際に、あらかじめ、研修を組むこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会にて交流し、よい刺激と反省の機会を与えてもらっている。今後も積極的に交流していきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。お話をお聞きすることが一番大切ではないかと考えている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の不安を受け止めるように、安心感を持ってもらえる会話を心がけている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの介護での困りごとを、家族の身になってお聞きするようにしている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長の方に教えてもらうことは多い。人生の先輩として、尊敬の念を持って接するようにしている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに情報交換しながら、支え合う関係を築いていきたい。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と家族の同意があれば、ホーム便りを送付するなど、支援に努めている。馴染みの方が、訪ねてこられた時は、ゆっくりお話できるように環境をととのえている。	ホームは交通の便が良く、利用者の友人がバスで会いに来られる事がある。子供さんと外食・お正月やお盆の帰宅・馴染みの美容室・墓参り等その人に合ったお手伝いをしている。米寿のお祝いや、疎遠であった家族と距離を置く事で関係の再構築ができた事等、関係の継続に努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調に合わせて、利用者同士の交流が無理にならないように見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、何名かのご家族と交流を続けている。自宅で採れた野菜を持ってたずねて来られることもある。今後も行事の案内等を送り、ふれあいを継続したい。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位ということを念頭において、支援している。	基本情報やアセスメントで情報の共有を図っている。また、日頃、清拭や入浴介助の時に個別に話を聞き、生活歴の把握に努めている。職員の離職が殆ど無く、先輩からの伝達で思いを把握し支援しており、今後、共有できる情報の充実を工夫する方向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別に対応する中で、今までの暮らしぶりをお聞きし参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの排泄のリズムや食事の状態を把握し、暮らしやすい一日の流れとなるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員を決め、年間を通して細やかな介護計画となるようにしている。サービス担当者会議を毎月開いているが、体調変化等で介護計画に見直しが生じた時は、早めに見直すようにしている。	利用者と家族の主訴を取り入れ、その人にとって一番大切なことを盛り込み介護計画を作成している。アセスメントシートは必要項目を抜粋した書式で三ヶ月毎に実施し、モニタリングで計画の実践状況をチェックしている。気になる事項は特記に書き込み、検討会議で状況を加味し、介護計画の見直しや評価を行い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、健康状態・食事摂取量・排泄等、一日の生活の様子を記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携における看護師の助言を活かし、病院受診等に柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同系列の保育園や学童保育との交流は今後とも継続していきたい、利用者の方も楽しみにしてられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医に継続して、受診している。	入居前からのかかりつけ医の受診や往診(月一回)を支援している。医師や看護師に状況を説明し連携を図りながら健康管理に努めている。また、歯科医の往診やリハビリには同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師は非常勤なので、介護職員は、利用者の日頃の様子を的確に伝えることを大切にしている。その上で、看護師からの助言を健康管理に生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら必ずお見舞いに行き、病院関係者に様子を伺う等の配慮をしている。戻るところがあるという安心感を持っていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あくまで、利用者と家族の意向を尊重したい。主治医や提携している病院の協力を得ながら、方針を共有し支援に取り組んでいきたい。	病院から点滴に来ていただいており、看取りの実施は無いが、ぎりぎりまでホームで診ており、最終的には医師の判断で病院に搬送されている。利用者の体調の悪化に伴い、医師から家族に説明を行い、ホームの対応を含め、今後体制の強化に取り組む方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を受けているが、まだ経験不足、勉強不足の職員もいる。今後も研鑽が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の指導のもと避難訓練を毎年2回実施し、昨年末には、南島原市の助成を受け、スプリンクラー工事を完了した。自治会には、火災・災害の折りの協力を、文書にて依頼している。	年二回消防署の立会いで、夜間で一人体制での訓練を含めて火災・避難訓練を実施している。今までに、地震災害に対する訓練の実施はなく、備蓄の準備や持ち出し品リストや、個人ファイルの作成にまで至っていない。	何時如何なる時に発生するか分からない、天災(地震・台風・水害・土砂崩れ・竜巻等)に対する避難方法を考慮され、災害に備えられることを期待したい。また、備蓄・個人ファイル(入居者に必要不可欠な物・薬・写真等)等の準備が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応に注意している。これからも、慎重にしていきたい。	接遇マナー研修を行い、親しみのある言葉掛けをしながら、誇りやプライバシーを損ねないことに注意を払っている。運営推進会議等の会議録には個人名は使用していないが、個人情報の利用目的の揭示や写真等の利用に関する同意の取り組みは無い。	ホーム便りやホームページ等に写真を掲載している。個人情報の利用目的(ホーム内に掲示)に写真に関する項目を明確に記載され、家族から同意を得られる事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしさが表せるように、その時々のご自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容室やホーム前のとしみ美容室におつれすることが多いが、出張で来てくださる理美容師をお願いすることもある。その日に着る洋服と一緒に選んで、みだしなみを整えるお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付け等でできることをお願いしている。季節の漬け物づくりや、まんじゅう作りは、お手の物である。	栄養士に外注して献立を作成(買い物や貰い物によって変更する事がある)し、調理を専門にする職員が美味しい物を提供している。また、行事の時にはバイキング(赤飯・寿司等)で楽しまれている。入居者の状態で形体は考慮している。一名の職員が検食として一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自室にて水分がとれるように、ペットボトルにお茶を入れて渡している。食事は、栄養士に立ててもらって、栄養バランスを考えたメニューになっている。食事がとれないときは、お粥・ゼリー・カロリーメイト等で補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄のリズムをつかみ、それとなく声かけをして、排泄を促すよう心がけている。	排泄チェックシートを活用し、声掛けや誘導で、出来るだけ自室のトイレでの排泄支援をしている。夜間はポータブルトイレや尿器を使用し、自力での排泄に向けた取り組みを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前のリハビリ体操に便秘予防体操を取り入れたり、食事のメニューに芋類やバナナを足す等している。利用者それぞれの排泄のパターンをつかめるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決め、その上健康状態を確認してからの入浴だが、特に大きな不満は耳にしない。入浴できないときは、体を拭いてさっぱりしていただいている。	週三回は入浴日であり、入浴できない時には足浴等を実施し、入浴を拒む人には、「ちょっと背中を見せて」等声掛けを工夫している。また、入居者に楽しんで頂くように、柚子湯や入浴剤を入れ、工夫をしながら清潔保持に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが自分のペースで昼寝や休息をしておられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診や往診後に薬が出された時は処方箋を確認し、前回との変化があるかないかをチェックする。薬の服薬間違いがないように、違う人が見直す。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方に合った役割をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族で外出できる方は、それぞれ出かけておられる。今後は、利用者の希望に沿った外出の機会を少しずつでも支援していきたい。	今年度は外出をテーマとして掲げていたが、入居者の状態が悪く、介護が大変で、庭の東屋までは頻繁に出かけているが、楽しみに繋がる外出が困難であった。時には保育園の行事に参加・買い物・お参り等できることを支援している。	今期はインフルエンザの流行や利用者の状態が悪化した人が数名で、大変であったが、気分転換やストレスの発散、五感への刺激の機会を考慮し、車窓からの見物も含め、ドライブ等、外出による楽しみに繋がる支援を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理される方は、その人らしく使っておられる。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく清潔な空間作りを工夫している。廊下に季節の花を飾ったり、利用者の作品や写真を展示するなどの工夫をしている。	A棟(母屋風)とB棟(新棟風)それぞれ棟が違っている。A棟は広い舞台付きのホールや居室以外に多機能な部屋を有し、広々としている。壁には文化祭に出展した貼り絵を飾り、季節の花や飾りがあり、明るく、嫌な匂や騒音を感じることなく、居心地良い空間が提供されている。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごしておられる。		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の好みにあわせて生活されている。	居室は利用者のニーズに沿って畳を敷く準備をしている。利用者は、仏壇・位牌・衣装コンテナ・テレビ・時計・写真等、その人の大切なものを持ち込み、我が家のように住みやすい環境作りをしている。居室には数名の利用者が集まり話をする姿が見受けられ、我が家として生活されている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけ廊下や自室の段差をなくし、自立した生活ができるよう支援している。また、自室前の目の高さに名札をつけ、混乱を防ぐ工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402374		
法人名	有限会社 アプリール		
事業所名	グループホーム あさひが森 B		
所在地	〒859-2111 長崎県南島原市布津町甲489		
自己評価作成日	平成22年1月30日(土)	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あさひが森では、「あなたの家庭と同じようになごやかで生き生きとした毎日を」の理念のもと、職員会議の最初に必ず全員で唱和し、日々の生活に生かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方も利用者として入所されているので、地域の方の面会もある。また、秋祭りの御輿の受け入れや、「あさひが森の集い」等のホームの行事に地域の老人会も参加して下さっている。町の文化展にも、毎年展示参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にグループホームがあることが、安心感を生み出すような存在でありたいと話合っている。職員も町内の者が多く、近所の方から介護に関することや認知症について相談を受ける等あり、気軽に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームからの一方的な報告だけに終わらないように、委員の方からの意見・助言を受け運営に活かしている。貴重な意見であり、有り難い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南島原市になって、窓口が遠く感じ、連絡を密に取り合うという状況にはなってないと思う。地域包括支援センターとは、空き状況などを連絡する。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全第一の気持ちから、「危ない」の言葉がけがすぐに出しまうが、今後も禁止の言葉がけについて、職員会議等で話し合っていきたい。まだまだ職員の認識不足がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加を促し、職員会議で話し合う場を設け、常に注意しあうように、努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業事業を利用されていた方もおられ、その制度の重要性を管理者は理解している。職員は認識不足かもしれない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉から、真意を察し不満が残ったままにしないように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体の会議後に、ユニット毎に小さな会議を開き、意見を出しやすい工夫をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の職員会議には必ず出席し、職員一人一人の話を聞く姿勢を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に行くことを積極的に進めている。シフトを作る際に、あらかじめ、研修を組むこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会にて交流し、よい刺激と反省の機会を与えてもらっている。今後も積極的に交流していきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。お話をお聞きすることが一番大切ではないかと考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の不安を受け止めるように、安心感を持ってもらえる会話を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの介護での困りごとを、家族の身になってお聞きするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長の方に教えてもらうことは多い。人生の先輩として、尊敬の念を持って接するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに情報交換しながら、支え合う関係を築いていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と家族の同意があれば、ホーム便りを送付するなど、支援に努めている。馴染みの人が訪ねてこられた時は、安心して会話ができるように、環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調に合わせて、利用者同士の交流が無理にならないように見守っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、ご家族と交流を続けていきたい。ご家族が希望されれば、今後も行事の案内等を送り、ふれあいを継続したい。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位ということを念頭において、支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別に対応する中で、今までの暮らしぶりをお聞きし参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの排泄のリズムや食事の状態を把握し、暮らしやすい一日の流れとなるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員を決め、年間を通して細やかな介護計画となるようにしている。サービス担当者会議を毎月開いているが、体調変化等で介護計画に見直しが生じた時は、すぐに見直しできるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、健康状態・食事摂取量・排泄等、一日の生活の様子を記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携における看護師の助言を活かし、病院受診等に柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同系列の保育園や学童保育との交流は今後とも継続していきたい、利用者の方も楽しみにしておられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医に継続して、受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師は非常勤なので、介護職員は、利用者の日頃の様子を的確に伝えることを大切にしている。その上で、看護師からの助言を健康管理に生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら必ずお見舞いに行き、病院関係者に様子を伺う等の配慮をしている。戻るところがあるという安心感を持っていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あくまで、利用者と家族の意向を尊重したい。主治医や提携している病院の協力を得ながら、方針を共有し支援に取り組んでいきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を受けているが、まだ経験不足、勉強不足の職員もいる。今後も研鑽が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の指導のもと避難訓練を毎年2回実施し、昨年末には南島原市の助成を受け、スプリンクラー工事を完了した。自治会には、火災・災害の折りの協力を、文書にて依頼している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の身になって言葉がけするようにしている。これからも思いやりのある対応をしていきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしさが表せるように、その時々 の自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	転倒を予防しながら、一人ひとりのペースを大切に支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容室やホーム前のとしみ美容室におつれすることが多いが、出張で来てくださる理美容師をお願いすることもある。その日に着る洋服と一緒に選んで、みだしなみを整えるお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付け等でできることをお願いしている。メニューの中で食べられない物がある時は、違うものをお出ししている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室にて水分がとれるように、ペットボトルにお茶を入れて渡している。食事は、栄養士に立ててもらって。栄養バランスを考えたメニューになっている。食事がとれないときは、お粥・ゼリー・カロリーメイト等で補うようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄のリズムをつかみ、それとなく声かけをして、排泄を促すよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューに芋類やバナナを足したり、スキムミルク等出している。利用者それぞれの排泄のパターンをつかめるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決め、その上健康状態を確認してからの入浴だが、特に大きな不満は耳にしない。入浴できないときは、体を拭いてさっぱりしていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが自分のペースで昼寝や休息をしておられる。夜間眠れない等の訴えある時にお茶を出して会話している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診や往診後に薬が出された時は処方箋を確認し、前回との変化があるかないかをチェックする。薬の服薬間違いがないように、違う人が見直している。薬についてわからないことは、看護師に聞いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった役割をお願いしているが、楽しみごとの支援が不足しているかもしれない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族で外出できる方は、それぞれ出かけておられる。今後は、利用者の希望に沿った外出の機会を少しずつでも支援していきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理される方は、その人らしく使っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく清潔な空間作りを工夫している。 廊下に季節の花を飾ったり、利用者の作品や写真を展示するなどの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごしておられる。居間や食堂におられるときは、自分の座る場所を決め、気のあった方と隣同士に座られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものをもって来られている。職員は、一緒に仏壇の花替えや仏飯を供える等支援し、安らぎを感じられるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけ廊下や自室の段差をなくし、自立した生活ができるよう支援している。また、自室前の目の高さに名札をつけ、混乱を防ぐ工夫をしている。		